

公益財団法人福岡県すこやか健康事業団における健診（検診）実績報告

当事業団は、がん・生活習慣病の克服に向けて、科学的根拠に基づく質の高い健診（検診）、知識の普及啓発、調査研究等を行うために学術研究センターを設置しております。

特に、各種健診（検診）データの分析・評価を行い、予防医学等に関する調査研究に資するため、胃・大腸がん、乳がん、子宮がん、肺がん、生活習慣病、労働衛生の6部門からなる学術専門部会を設置し、各委員はそれぞれの分野の有識者で構成されています。

今回の報告は、6学術専門部会で分析・評価いただいた実績報告です。

【平成27年度健診（検診）実績概要報告】

平成27年度に当事業団で行いました健診（検診）総数は50万人近くになり、そのうち主なものは、がん検診326,997人、健康診査129,434人、特殊健診10,657人、特定保健指導830人でした。

また、平成28年度も健診事業の中から幾つかの研究および学会発表を行い、第46回消化器がん検診学会九州地方会、第26回日本乳癌検診学会学術総会に各2題、第75回日本公衆衛生学会総会に各1題、日本総合健診医学会第45回大会に各2題の計6題を発表することが出来ました。

今後も学術研究センターの活動をさらに発展させ、健診データの標準化を基盤に置いて、地域住民の皆様の健康増進と福祉の向上に取り組んでいきたいと考えています。皆様のご支援とご指導を引き続き宜しくお願い申し上げます。

平成30年2月

公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団
理事長 瓦林 達比古

平成27年度 がん検診実施状況総括(日本対がん協会全国支部合計と事業団実績)

		受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん	がん発見率
		(A)	(B)	(B/A×100)	(C)	(C/B×100)	(D)	(D/A×100)
胃がん検診	福岡県支部(当事業団)データ ※1	81,779	4,635	5.67	3,562	76.85	91	0.11
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,321,500	158,488	6.83	128,107	80.83	3,012	0.13
子宮頸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	54,093	867	1.60	697	80.39	26	0.05
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,314,190	18,532	1.41	15,036	81.14	192	0.01
乳がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	59,324	4,507	7.60	4,130	91.64	170	0.29
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,290,120	65,470	5.07	58,229	88.94	3,114	0.24
大腸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	80,040	4,522	5.65	2,821	62.38	120	0.15
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,608,621	162,316	6.22	112,638	69.39	4,267	0.16
肺がん検診	福岡県支部(当事業団)データ ※2	51,761	2,163	4.18	1,904	88.03	42	0.08
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	3,295,833	66,543	2.02	52,146	78.36	1,465	0.04

※1. X線検査のみの数値

※2. X線+喀痰細胞診のみの数値

出典:平成27年度版・がん検診年次報告書より抜粋(公益財団法人 日本対がん協会)

1. 胃がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中 度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	45,771	2,931	6.4	2,626	89.6	79	0.17	61	77.2	2.70	62.0±11.0
職域	34,028	1,638	4.8	905	55.3	12	0.04	9	75.0	0.73	47.4±9.6
ドック	1,980	66	3.3	31	47.0	0	0.00	0	0.0	0.00	45.1±8.2
総計	81,779	4,635	5.7	3,562	76.9	91	0.11	70	76.9	1.96	55.5±12.7

平成27年度の胃がん検診受診者数は地域で45,771人、職域で34,028人、人間ドックで1,980人、計81,779人であった。要精検率は5.7%、精検受診率は76.9%、発見がん数は91人でがん発見率は0.11%、そのうち早期がんは70人で、早期がん率76.9%、陽性反応適中度は1.96%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標では、許容値は、要精検率11%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.11%以上、陽性反応適中度1.00%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

2. 子宮頸がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期 I A1期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中 度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	39,673	401	1.0	378	94.3	21	0.05	13	61.9	5.24	58.2±13.1
職域	13,561	436	3.2	297	68.1	4	0.03	4	100.0	0.92	42.8±10.9
ドック	859	30	3.5	22	73.3	1	0.12	0	0.0	3.33	44.6±7.6
計	54,093	867	1.6	697	80.4	26	0.05	17	65.4	3.00	54.1±14.3

※: 発見がんの内、上皮内がん10人を除いた場合、全体のがん発見数16人、発見率0.03%、早期がん数7人、早期がん率43.8%、陽性反応適中度1.84%

平成27年度の子宮頸がん検診受診者は地域で39,673人、職域で13,561人、ドックで859人、計54,093人であった。全体の要精検率は1.6%、精検受診率は80.4%、発見がん数は26人でがん発見率は0.05%、そのうち早期がんは17人で早期がん率65.4%、陽性反応適中度は3.00%であった。また、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標の許容値(要精検率1.4%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.05%以上、陽性反応適中度4.0%以上)は、地域においては全て満たしていた。

3. 乳がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期 I 期までと定義

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中 度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	44,576	3,413	7.7	3,264	95.6	154	0.35	98	63.6	4.5	58.8±12.1
職域	13,800	1,015	7.4	804	79.2	15	0.11	12	80.0	1.5	43.9±10.7
ドック	948	79	8.3	62	78.5	1	0.11	1	100.0	1.3	44.3±7.8
計	59,324	4,507	7.6	4,130	91.6	170	0.29	111	65.3	3.8	55.1±13.4

平成27年度の乳がん検診受診者数は地域で44,576人、職域で13,800人、人間ドックで948人、計59,324人であった。要精検率は7.6%、精検受診率は91.6%、発見がん数は170人でがん発見率は0.29%、そのうち早期がんは111人で、早期がん率65.3%、陽性反応適中度は3.8%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標の許容値は、要精検率11%以下、精検受診率80%以上、がん発見率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

4. 大腸がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	42,279	2,606	6.2	2,040	78.3	92	0.22	65	70.7	3.53	62.3±11.1
職域	34,842	1,774	5.1	722	40.7	25	0.07	16	64.0	1.41	48.7±9.5
ドック	2,919	142	4.9	59	41.5	3	0.10	2	66.7	2.11	45.9±8.6
計	80,040	4,522	5.6	2,821	62.4	120	0.15	83	69.2	2.65	55.8±12.4

平成27年度の大腸がん検診受診者数は地域が42,279人、職域が34,842人、ドックが2,919人、計80,040人であった。要精検率は5.6%、精検受診率は62.4%、発見がん数は120例、がん発見率は0.15%、そのうち早期がんは83例で早期がん率は69.2%、陽性反応適中度は2.65%であった。地域においては、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標（許容値：要精検率7.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.13%以上、陽性反応適中度1.9%以上）を満たしていた。

5. 肺がん検診の実施状況

要精検を胸部読影判定Eとした場合（喀痰検査のみ除く）

※早期がんを病理病期IA期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	46,349	1,117	2.4	1,017	91.0	32	0.07	11	34.4	2.86	63.2±10.7
職域	2,400	13	0.5	10	76.9	0	0.00	0	0.00	0.00	51.8±10.8
ドック	3,012	14	0.5	9	64.3	0	0.00	0	0.00	0.00	45.7±8.6
計	51,761	1,144	2.2	1,036	90.6	32	0.06	11	34.4	2.80	61.7±11.5

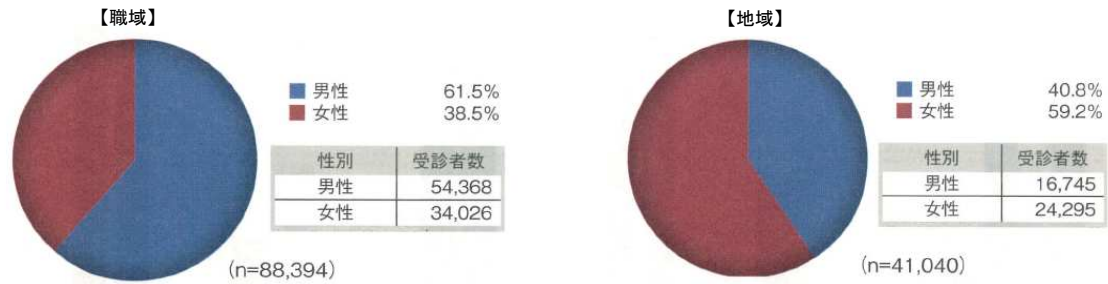
平成27年度の肺がん検診受診者数は地域で46,349人、職域で2,400人、人間ドックで3,012人、計51,761人であった。胸部読影判定E判定を要精検とした場合、要精検率は2.2%、精検受診率は90.6%、発見がん数は32人でがん発見率は0.06%、そのうち早期がんは11人で、早期がん率34.4%、陽性反応適中度は2.80%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標（E判定のみ）では、要精検率許容値3.0%以下、精検受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.03%以上、陽性反応適中度許容値1.3%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

6. 健診・特定保健指導

①平成27年度 健診受診者状況



平成27年度の健診受診者総数は、地域41,040人、職域88,394人の計129,434人であった。
そのうち、特定健診は地域36,997人、職域46,753人の計83,750人であった。



	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	9,460	14,417	13,222	10,195	6,573	501
女性	7,776	8,435	8,327	6,361	2,893	234

(単位:人)

	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	68	550	1760	1726	7302	5,339
女性	232	2000	2157	2698	11053	6,155

(単位:人)

性別・年齢別にみると、職域は男性が約6割を占め、30歳代が最も多く、40歳代、29歳以下、50歳代の順であった。
地域は女性が約6割を占め、年齢は60歳代が最も多く、70歳代、50歳代、40歳代の順であった。

②特定保健指導実施状況

実施者数：830名（職域:483名、地域:347名）

【職域】

	初回面談数(人)	評価実施数(人)	評価率(%)	体重増減数(kg)	腹囲増減数(cm)
積極的支援	225	201	89.3	-1.3	-1.5
動機付け支援	258	228	88.4	-1.0	-1.2

【地域】

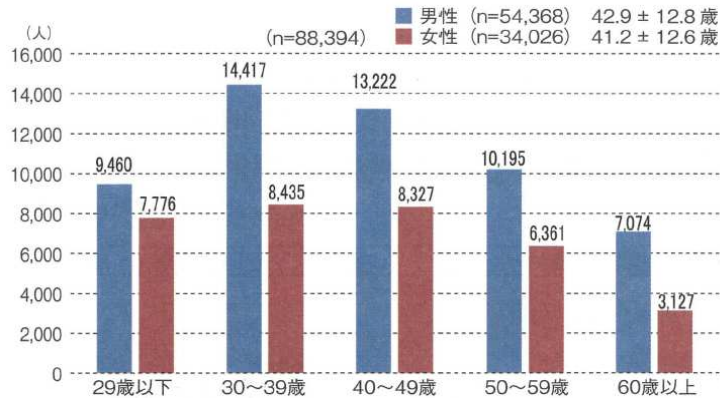
	初回面談数(人)	評価実施数(人)	評価率(%)	体重増減数(kg)	腹囲増減数(cm)
積極的支援	63	37	58.7	-1.5	-0.9
動機付け支援	284	228	80.3	-0.7	-0.6

7. 労働衛生

(1) 一般健康診断実施状況

性別でみると、男性54,368人(61.5%)、女性34,026人(38.5%)で男性の受診者が多かった。また、年齢階級別にみると、どの年代においても女性に比べ男性の受診者数が多く、平均年齢は男性42.9歳、女性41.2歳であった。30～39歳が最も多く、次いで40～49歳であった。

<年齢階級・性別受診者数>



(2) 特殊健康診断実施報告

特殊健康診断の項目別に判定結果をみると、管理Bは有機溶剤では25人(0.6%)、特定化学物質では4人(0.1%)、電離放射線では9人(1.0%)であった。石綿では、要二次検査対象が2人(0.3%)にみられ、その結果、管理Bとなった。

<特殊健康診断 項目別判定結果>

区分 項目	受診者数 人	判定結果											
		管理A		管理B		管理C		管理R		管理T		要二次検査	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
有機溶剤	4,034	3,536	(87.7)	25	(0.6)	0	(0.0)	1	(0.0)	472	(11.7)	0	(0.0)
特定化学物質	3,725	3,534	(94.9)	4	(0.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	187	(5.0)	0	(0.0)
電離放射線	900	875	(97.2)	9	(1.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	16	(1.8)	0	(0.0)
鉛	191	183	(95.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(4.2)	0	(0.0)
石綿	605	591	(97.7)	4	(0.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(1.3)	2	(0.3)

(3) 作業環境測定

平成27年度の環境科学センターにおける作業環境測定実施状況は、鉱物性粉じんは55事業場で実施し、延単位作業場所数245、このうち第一管理区分が215作業場(87.8%)であった。特定化学物質等は67事業場で実施し、延単位作業場所数195、このうち第一管理区分が186作業場(96.4%)であった。特別有機溶剤は80事業場で実施し、延単位作業場所数204、このうち第一管理区分が180作業場(88.2%)であった。鉛は3事業場で実施し、延単位作業場所数7の全てが第一管理区分であった。鉛以外の金属類は23事業場で実施し、延単位作業場所数54、このうち第一管理区分が53作業場(98.1%)であった。有機溶剤は104事業場で実施し、延単位作業場所数441、このうち第一管理区分が368作業場(83.4%)であった。騒音は10事業場で実施し、延単位作業場所数100、このうち第一管理区分が42作業場(42.0%)であった。ダイオキシン類は6事業場で実施し、延単位作業場所数32の全てが第一管理区分であった。

<環境測定実施状況>

測定対象作業場	測定実施事業所数	延単位作業場所数	延べ単位作業場の管理区分		
			第一管理区分	第二管理区分	第三管理区分
鉱物性粉じん	55	245	215	10	20
特定化学物質等	67	195	186	4	5
※特別有機溶剤	80	204	180	12	12
金属類	鉛	3	7	7	0
	鉛以外	23	54	53	1
有機溶剤	104	441	368	47	26
騒音	10	100	42	46	12
ダイオキシン類	6	32	32	0	0

※平成26年11月～特定化学物質へ移行したもの